

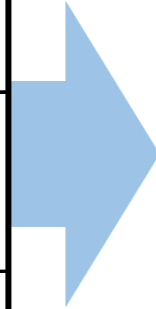
2020年度 ガイドライン評価改善シート

施設名 (エシカファーム 八反畑園) 作成日時 (令和2年11月)

代表	施設長	本部
風間	行藤	田中

令和年度 改善への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・社会生活・社会のルールの習得や将来の仕事に繋がる活動を、個々に役割分担をしていくなどして経験の中から自信を持って出来ることを増やしていく。 ・支援計画、支援目標で特に注目する部分を抽出し、スタッフと共有し、支援していく。・相談、苦情には常勤が迅速に対応し、情報や状況を明確に説明する。 ・非常災害の対応・取り組みを施設内掲示やブログだけでなく、保護者に非常対策手引の配布、個別支援計画に明記し、説明する。
今年度の施設目標	TEACCHシステムを基に、将来を見据えた経験・体験の中から自信が持てる活動を選択できるようにしていく

項目	保護者評価、事業所内評価を踏まえた上での共通点	保護者評価、事業所内評価を踏まえた上での相違点
環境・体制整備	<ul style="list-style-type: none"> ・子供の活動スペースが十分に確保できていなかったり、スタッフの配置が下校時間が重なると十分でないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフの専門性に関しては経験年数等により差が出ている。
業務改善	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフの資質の向上を行う為に、月1回のスタッフミーティングや常勤が受講したZOOM研修の内容を共有。個別でリタリコ等の研修動画でのスキル 	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフに対して支援計画・支援目標の周知はできたが、これらを基にして具体的な支援について統一ができていない。また、振り返りが十分でない。
適切な支援の提供	<ul style="list-style-type: none"> ・集団活動では利用児の発達年齢・特性等に合わせた活動内容が設定できているが個別活動に対しては設定できていない児童が多い。 ・活動内容に合わせて適切な対応ができていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生や小学生高学年に対しての活動内容が集団活動が多く、個別にあった内容で設定できていない。
関係機関や保護者との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・支援級の利用児童に関しては、学校との情報共有・連絡調整ができています。 ・普通級の利用児童に関しても、連携が取れつつある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策の観点から、利用児童の活動を直接見てもらう形式から、送迎時に口頭で伝える形式に変更したが、様子がわかりにくいため保護者は不安に感じて
保護者への説明責任等	<ul style="list-style-type: none"> ・支援内容や子供の状況や課題についての共通理解ができています。 ・定期的に活動内容を施設内掲示やブログ等で発信ができています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用児や保護者からの相談や苦情に対して常勤職員が、適切に対応しているが、実感できていない保護者も多くいた。
非常時等の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症・虐待防止を防止するため、スタッフミーティングでの研修を行っている。 ・ヒヤリハットの事例を共有している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・非常災害時の訓練や感染症対策について、昨年度に比べ認知されているが、まだ十分とは言えない。



分析検討してみた事業所の強み	分析検討してみた事業所の改善点
<ul style="list-style-type: none"> ・利用児の活動内容に合わせて、適切な対応ができるスタッフを配置することができている。(体を動かす内容は男性スタッフ等) ・個別でリタリコ等の研修動画でのスキルアップや施設内でのスタッフミーティング、常勤が受講したZOOM研修の内容を共有することで支援の考え方・方向性・目的を学び、スタッフの資質の向上を行うことができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策をしながら、子供の活動の様子を確認していただけるようにする。 ・集団活動を行う共に個別に行う活動の時間を増やしていく。 ・新しい生活様式による活動内容の見直しをするとともに、ニーズに合わせた支援を行う。 ・進学や就労に関する情報交換や情報提供ができるようにする。

事業所の改善への取り組み
<ul style="list-style-type: none"> ・保護者が活動内容を確認できる機会が感染症対策として減っているため、ブログにアクセスしやすいようにQRコードの作成、活動内容や作品をスライド形式にして迎える待ち時間に見ていただけるようにする。 ・集団活動を行うと共に個別支援計画をもとにした、発達年齢や特性をふまえた個別や少人数での活動を増やし体験活動(カフェ、買い物、調理など)を感染症対策を行いながら取り組んでいく。 ・支援計画・支援目標の共有と具体的な内容を示し、スタッフが統一した支援が行えるようにする。 ・利用児の変化はLINEなどのツールを使い迅速に、状況確認・情報共有ができるようにし、保護者に正確な情報を報告できるようにする。 ・利用児や保護者からの相談・苦情の対応はケースにより、相談支援事業所・発達支援センター・市町行政や学校と連携できるような対応策を保護者に具体的に提案する。

自己評価を行っての事業所としての感想など
<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策を十分にした上での新しい生活様式を踏まえて、活動内容や保護者への対応が必要になっている。 ・進級・進学・就労などの進路の情報や悩みについての相談が多くなっているので、各関係機関との連携の機会を設ける事を積極的に行っていくが必要になっていると感じている。

来年度の施設目標	自ら「わかる」「できる」「確認できる」「折り合いをつけられる」活動の提供と経験・体験の積み重ねができるようにする
----------	--